

平成 30 年度

学校の運営に
関する計画

自己評価書
(最終評価)

大阪市立東三国中学校

大阪市立東三国中学校 平成30年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・昨年の全国学力状況調査においては、全ての教科で大阪市の平均を上回り、国語Aと数学Bは全国平均を上回った。国語Bと数学Bでは全国平均を若干下回った。大阪市英語力調査では、英検3級以上を半数以上の生徒がクリアし目標を達成できた。全市共通目標であるチャレンジテストでは、2年と3年は全教科で大阪府平均を上まわり、1年生も大阪市平均を上まわった。昨年度と比較すると正答率3割以下の生徒は半数近く減ったが、同一母集団では変化は見られず課題である。
- ・「授業でペアやグループで話し合ったりする協働学習」や「ICT機器を使った授業」は、80%近くが「わかりやすい」と答え、「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合も82%となり成果を得ている。さらに授業力向上にむけて、教材研究と授業改善を取り組んでいく必要がある。
- ・ICT機器や視聴覚機器の整備により、タブレットや大型プロジェクターを活用した授業などが定着してきた。協働的な学習のツールとして、ホワイトボードなどを活用したグループ交流による授業も行われるようになってきた。今後も生徒の学びに向かう意欲を高め、主体的、能動的な学習ができる環境つくりに努め、わかりやすい授業づくりを目指していきたい。
- ・生徒は、日々、どの授業も落ち着いてしっかりと受けており、「学校のきまり・規則を守っているか」では95%が肯定的に答えている。生徒との日々の関わりを大切にし、段階的生活指導基準を適用するような暴力事象などは皆無である。
- ・不登校傾向の生徒の増減は大きく変わらないが、集団になじまない生徒や発達障害をもつ生徒への居場所づくりに、学校全体の共通理解を図りながら努め、生徒の生活改善の足がかりとなっている。家庭との連携を密にして不登校生の減少にむけた様々な角度からのアプローチがさらに必要である。
- ・本校の特色である学校元気アップボランティアを活用した地域からの学校支援や、ジュニアリーダーによる生徒たちの地域へのボランティア活動や防災研修が積極的に行われ、地域の方々と生徒たちの相互の交流が、安定した学校教育環境を作っている。ボランティア意識と参加状況は年々高くなってきており、継続して取り組んでいきたい。
- ・大きな課題として、「自分によいところがあると思う」と答えた生徒の割合は65%にとどまり、生徒の自尊感情の低さが伺える。また、「1日の平均家庭学習時間」では「全くしない」と答える生徒の割合は20%もあった。生徒の成就感や成功体験を積み重ねていく必要がある。
- ・朝食習慣においては、「食べていない」と答える生徒の割合は4%と少ないが、睡眠習慣については「7時間以上」と答えた生徒は63%であった。充実した学校生活がおくれ学習に取り組めるよう、その重要性を認識させるための啓発を継続して取り組む必要がある。
- ・図書館のバーコード管理、学校元気アップボランティアによる図書整備や開館と給食片付けによる時間確保を行い、読書環境と自主学習できる環境を提供しているが、読書習慣のない生徒の割合は高く、読書習慣の定着に向けてさらに取り組む必要がある。
- ・昨年度の全国体力・運動能力調査では、男女とも体力合計点では全国平均を上まわっているが、握力、長座体前屈は男女ともに低い。「運動することが好きで、体力づくりにがんばっている」と答えた生徒の割合は61%と低く、保健体育科の授業が基礎体力とし、積極的に日常的に身体を動かす習慣をつけさせていきたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 生徒の規範意識を育むため段階的指導基準を活用しながら、日々の関わりを大切に取り組み、平成 33 年度の全国学力・学習状況における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を 92% 以上にする。
- 生徒が協働できる集団づくりなどを積極的に導入し、生徒の過ごしやすい学校づくりに尽力し、平成 33 年度の全国学力・学習状況における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を平成 29 年度より 3% 向上させる。
- さまざまな理由で学校環境に適応しにくい生徒のサポートを積極的に行い、毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 生徒のボランティア意識を向上させる取り組みを活性化し、平成 32 年度の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 85% 以上にする。
- 積極的に学校支援ボランティアを活用し本校教育を活性化させ、平成 32 年度末までに P T A や地域・各種団体・学生等のボランティア等を 700 人以上集める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 授業力向上のための教員研修を積極的に実施するとともに、生徒の読書習慣および基礎学力向上に尽力し、平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の平均正答率を全国平均以上にする。
- I C T 機器等を活用した授業を活性化させ、平成 33 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を全国平均以上にする。
- 平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より向上させる。
- 平成 32 年度の校内アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している」と答える生徒の割合を平成 29 度より増加させる。
- 平成 32 年度の全国・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、平成 28 度より減少させる。
- 平成 32 年度の大都市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 50% 以上にする。
- 平成 32 年度における校内アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の 75% 以上にする。
- 平成 33 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 28 年度より 3 ポイント向上させる。
- 平成 32 年度末の校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について。「当てはまる」と答える生徒の割合を 70% 以上にする。
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない」と答えた生徒の割合を平成 33 年度において 7% 以下にする。
- 平成 32 年度の校内アンケートにおける「一日の睡眠時間」に対して、「8 時間以上」と答える生徒の割合を平成 29 年度より向上させる。平成 33 年度の全国体力・運動習慣調査の質問項目「一日の睡眠時間」について「8 時間以上」と回答する生徒の割合を全国平均レベルにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- ・平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を 88% 以上にする。
- ・平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ・平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 生徒の規範意識を育むため段階的指導基準を活用しながら、日々の関わりを大切に取り組み、平成 30 年度の校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を 89% 以上にする。
- 生徒が協働できる集団づくりなどを積極的に導入し、生徒の過ごしやすい学校づくりに尽力し、平成 30 年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を平成 29 年度より向上させる。
- さまざまな理由で学校環境に適応しにくい生徒のサポートを積極的に行い、毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 生徒のボランティア意識を向上させる取り組みを活性化し、平成 29 年度の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 82% 以上にする。
- 積極的に学校支援ボランティアを活用し本校教育を活性化させ、平成 30 年度末までに P T A や地域・各種団体・学生等のボランティア等を 670 人以上集める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題である握力、長座体前屈の平均値を昨年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 授業力向上のための教員研修を積極的に実施するとともに、生徒の読書習慣および基礎学力向上に尽力し、平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の平均正答率を昨年度より上げ全国平均に近づける。
- I C T 機器等を活用した授業を活性化させ、平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を昨年度より上げ全国平均に近づける。
- 平成 30 年度の校内アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している」と答える生徒の割合を平成 29 年度より増加させる。
- 平成 30 年度の校内アンケートにおける「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 平成 30 年度の大都市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 40% 以上にする。
- 平成 30 年度における校内アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の 72% 以上にする。
- 平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 28 年度より 2 ポイント向上させる。
- 平成 30 年度の校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について。「当てはまる」と答える生徒の割合を 65% 以上にする。
- 校内アンケートの「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない」と答えた生徒の割合を 9% 以下にする。
- 平成 30 年度の校内アンケートにおける「一日の睡眠時間」に対して、「8 時間以上」と答える生徒の割合を昨年度よりも向上させる。平成 31 年度の全国体力・運動習慣調査の質問項目「一日の睡眠時間」について「8 時間以上」と回答する生徒の割合を全国平均レベルにする。
- 第 2 学年において漢字検定受検にむけ取り組み、生徒の学習意欲向上と自信につなげ、基礎学力定着の一助とし、全国学力・学習状況調査における漢字正答率を増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・今年の全国学力状況調査においては、すべての教科で大阪市の平均正答率を上まわった。全国平均では、国語 A が全国平均を若干 1 ポイント下まわったが、他は上まわり全体平均では 1.7 ポイント全国平均を上まわった。特に数学は A B とも高かった。理科については 3 年前実施結果より 1 ポイントあがった。また、大阪市英語力調査は、英検 3 級以上が、昨年度より 3 ポイント低く 49% となり半数をこえなかつたが、同一集団でみると昨年より 8.9 ポイントあがつた。全市共通目標であるチャレンジテストでは、昨年度と比較すると、正答率 3 割以下の生徒も 3 ポイント減り、正答率 7 割以上の生徒は 5 ポイント増えたが、同一母集団で比較すると、標準化得点は 2 ポイント下がり、正答率 7 割以上の生徒が 18 ポイントも下がつた。3 年になると学習内容が難しくなり高得点を維持していくことが難しく課題である。
- ・「 I C T 機器を使った授業」は 74% が「わかりやすい」と答え、昨年度から 1 ポイント上昇した。「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は、77% が「あてはまる」と答え昨年度より 2 ポイント上昇し、目標を達成した。しかし、「授業がわかりやすい」と答える生徒は 78% で目標は達成しているが、昨年度より 4 ポイント下がつた。また、「授業でペアやグループで話し

合つたりする協働学習の授業はわかりやすいか」では、8ポイント減少し72%になった。協働的な学習での話し合い活動では、生徒たちは楽しく授業に参加できていますが、その話し合いが授業理解や深い学びにつながるように授業研究を進め指導方法の工夫をしていく必要がある。

- ・わかりやすい授業を目指し、全教室に壁掛けの短焦点プロジェクターの設置を行い、ICT機器や視聴覚機器の整備により、タブレットやプロジェクターを活用した授業をさらに推進することができた。生徒の学びに向かう意欲を高め、主体的、能動的な学習ができる環境づくりに努め、協働的な学習のツールとして、ホワイトボードなどを活用したグループ交流による授業も頻繁に行われるようになってきたが、多様な活用など効果的な指導方法についてさらに研究を深めていく必要がある。
- ・生徒は、日々、どの授業も落ち着いてしっかりと受けており、「学校のきまり・規則を守っているか」では93%が肯定的に答えていた。生徒との日々の関わりを大切にし、段階的生活指導基準を適用するような暴力事象などは皆無である。
- ・「自分によいところがあると思う」と答えた生徒の割合は66%で、昨年度より1ポイント増加となつたが、全国平均と比べると、生徒の自尊感情の低さが伺え、本校の課題である。また、「1日の平均家庭学習時間」では「全くしない」と答える生徒の割合は16%で昨年度より4ポイント下がった。各教科で家庭学習での課題を与え、何度も繰り返し提出するよう指導している。今後も丁寧に生徒指導にあたり、各家庭にも働きかけながら、生徒の成就感や成功体験を積み重ねていく必要がある。
- ・不登校傾向の生徒は、学年がすすむにつれて増加していく傾向にある。学校全体の増減は大きく変わらないが、集団になじまない生徒への対応に学校全体の共通理解を図りながら、個別の状況に応じた対応に努め、完全不登校となる前に生徒の生活改善に努力している。家庭との連携を密にして不登校生の減少にむけた様々な角度からのアプローチがさらに必要である。
- ・本校の特色である学校元気アップボランティアを活用した地域からの学校支援や、ジュニアリーダーによる生徒たちの地域へのボランティア活動が積極的に行われ参加数も増えており、地域の方々と生徒たちの相互の交流が、安定した学校教育環境を作っている。ボランティアの登録は720名を越えている。地域での防災活動として、東北ボランティア研修報告や防災訓練ボランティア支援は、地域での評価も高く大きな成果を得ている。
- ・生活習慣については、「朝食を毎日食べているか」では「食べていない」と答えた生徒の割合は4%と少ない。「一日の睡眠時間」に対して、「8時間以上」と答えた生徒は30%で、「7時間以上」と答えた生徒は87%であった。全国的にみても睡眠時間が1時間短く、特に3年女子の睡眠時間が短く、充実した学校生活がおくれ学習に取り組めるよう、スマホなど生活習慣の改善にむけ啓発を継続して取り組む必要がある。
- ・全国体力・運動能力調査では、体力合計点を男女とも全国平均を上まわった。昨年度課題となつた長座体前屈についても全国平均を上まわり大きく改善された。握力については、昨年度より向上したが、女子は全国平均を下まわった。また、「運動することが好き」は、66%が「あてはまる」と答え、昨年度より5ポイント増加し目標を達成した。保健体育科の授業が基礎体力とし、積極的に日常的に身体を動かす習慣をつけさせてていきたい。
- ・区の支援を受け、第2学年において1月末に漢字検定受検を実施した。生徒の習熟に応じて級数を選択し取り組み、基礎学力定着の一助となつた。高校レベルの受検をする生徒も1割あり積極的に学習に向かう姿勢が伺えた。

(様式例 2)

大阪市立東三国中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。 平成 30 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を 88% 以上にする。 平成 30 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 平成 30 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の規範意識を育むため段階的指導基準を活用しながら、日々の関わりを大切に取り組み、平成 30 年度の校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を 89% 以上にする。 ○生徒が協働できる集団づくりなどを積極的に導入し、生徒の過ごしやすい学校づくりに尽力し、平成 30 年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を平成 29 年度より向上させる。 ○さまざまな理由で学校環境に適応しにくい生徒のサポートを積極的に行い、毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。 ○生徒のボランティア意識を向上させる取り組みを活性化し、平成 29 年度の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を 82% 以上にする。 ○積極的に学校支援ボランティアを活用し本校教育を活性化させ、平成 30 年度末までに P T A や地域・各種団体・学生等のボランティア等を 670 人以上集める。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>A いじめ・問題行動に対応する制度の活用 SSW や S C との連携、さまざまな社会資源からの支援を進めながら、段階的生活指導基準の取組を進める。</p> <p>B 防災・減災教育の推進 地域の防災訓練や東北ボランティア研修への生徒の参加を進めるとともに、地域防災を担う人材育成に取組む。</p> <p>C 安全教育の推進 さまざまな場面を想定して、防災・安全教育に努める。</p>	B

<p>指標</p> <p>A 生徒アンケートで明らかになつたいじめ等の諸問題について、解消へ向けて対応している割合を 95% にする。</p> <p>B ジュニアリーダーを組織化し、防災減災教育で活動できるような取り組みを進める。</p> <p>C 年 2 回の避難訓練を実施する。また、1 学期中に警察の協力を元に防犯教室を実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>A 道徳教育の推進 問題解決的な学習や体験学習を柱とした道徳の構築を進める。</p> <p>B キャリア教育の充実 適切な職業観や勤労に対する意識を育成するための 3 年間を見通した指導計画を立てて、取り組みを進める。</p> <p>C 人権を尊重する教育の推進 「平和・男女共生教育・国際理解教育」を 3 つの柱として、各学年で指導を進める。</p> <p>D インクルーシブ教育システムの充実と推進 個々の生徒を把握し、日常的に生徒の情報交換を行い、教職員の共通理解を図る。交流学習や校外学習を計画的に実施する。必要に応じて、医療・福祉の関係機関との連携も含めて、保護者との連携を密にとっていく。</p>	B
<p>指標</p> <p>A 「キラリ道徳」の読み物教材を活用しながら、問題解決的な学習、体験学習を構築する。</p> <p>B 1 年生で職業体験セミナー、2 年生で職業体験、3 年生で高校出前授業を実施する。進路学習を 1 年生は 3 時間、2 年生・3 年生は 7 時間以上取り組む。3 年の進路希望調査を 4 回以上行い、それを受けて懇談および適宜教育相談を進める。</p> <p>C 各取組でアンケートを実施し、「理解できた」の割合を 80 % 以上にする。</p> <p>D 特別支援教育委員会と職会で、月 1 回の情報交換で教職員の共通理解を図り、実践に役立つようとする。また年 1 回、校内研修会を開く。アイマスク体験や車いす体験などの福祉体験学習を年 1 回実施する。在籍生徒については、毎日の連絡ノートで保護者と連携をはかる。</p>	
<p>取組内容③【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>「開かれた学校」づくりの取り組みとして、学校元気アップ事業を活用した学校支援ボランティアの募集を行い、地域の人材を活用した学校支援体制を確立する。また、小中連携、地域連携を通じて学校が地域コミュニティの一つとして機能することをめざした情報発信を積極的に行う。</p>	A

制を確立する。

- ・地域行事への生徒の積極的に参加させる

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

A 9月教育相談、6・10・11・1月に生活アンケートを実施。課題について早期発見や対応に努めた結果、指導・その後の経過観察も含めて一定解消へ向けて対応できた割合は95%以上に達した。また、段階的生活指導を試行。校内外で起こった事象については、スキップを活用して教職員へ周知、共通の情報を持ちながら、対応について意志一致を図った。

問題事象が起きないよう取り組みなどを通じて注意喚起し、未然の予防に努めた。

B ジュニアリーダーは1年間を通じて活動した。それぞれの取組で参加した生徒が組織的に活動できるように成長した。とりわけ、地域や小学校での防災の取組では、参加した小学生の先頭に立ち活動するなど意欲的であった。また、東北ボランティア研修については、校区小学校や地域に加え他区小学校での報告を行うなど研修で学んできたことを伝える役割を果たした。さらに、今年度の研修参加生徒の活動も始まり、学校としての取り組みを継続することができている。

C 1・2学期の火災と津波を想定した訓練に加え、防災の取り組みを実施した。実施に当たり教職員の研修会も設け、教職員の防災知識を高めた。生徒の防災への知識が昨年度よりも12%上がり、90%に達した。

取組内容②【施作2 道徳心・社会性の育成】

A 年間カリキュラムにしたがい、副教材「キラリ道徳」を使いながら、読み物教材活用の授業に取り組んだ。また、2年生職業体験や1・2年生地域清掃などの道徳的価値観につながる体験的な学習も進めてきた。

B 1年生のキャリア教育は、1学期に様々な職業を調べて「10年後の自分」のイメージを明確にすることで、現在の自分たちの在り方を考えさせる取り組み合計3時間をおこなった。12月には、職業体験セミナーに参加をし、様々な仕事を体験することで、将来の進路選択へのきっかけとなった。

2年生は、SPトランプを使っての自己理解のための取り組みからスタートし、具体的に仕事について学ぶ、職業体験学習を2日間おこない合計30時間取り組んだ。

3年生は、近い未来をどうするのかを考えるために、前半では、中高連携出前授業で2時間、進路の手引きを使って1時間合計3時間取り組んだ。後半からは、願書の書き方の指導や、学年での面接指導を2時間、講師の先生を招いての面接マナー講座など、全体で8時間以上おこなった。そして、進路希望調査は現段階で4回おこない、それを受け、担任が随時教育懇談をして進路決定ができるようにしている。

C 各学年の、「平和学習」「男女共生教育」「国際理解教育」実施後、学習理解の程度をはかるアンケートを実施したところ、4段階中、2段階（肯定的回答）の占める割合が、すべての学習で9割以上に達している。

D 関係諸機関との相談や連携を図り、相談等を行ってきた。また居住地交流の回数も前年より回数を増やし行うことができた。

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- ・ 学校元気アップ地域コーディネーターが中心となり、給食ボランティア、図書館ボランティアが年間を通じて学校支援を行ってくれたものの、学習支援ボランティアの集まりが芳しくなく課題となつた。また、ジュニアリーダーなどの取組みを通して校区小学校や地域の活動に積極的に参加するなど、開かれた学校づくりを推進できた。
- ・ また、学校・学年行事だけでなく普段の学校生活を、学校ホームページや各種通信によってお知らせることでも開かれた学校づくりができた。地域会議や青少年を守る会など、学校と地域をつなぐ各種組織と連携し協力体制を確立する。
- ・ ジュニアリーダーでの活動や、地域清掃の実施など、地域主催の行事へも生徒の積極的に参加させ、活発な活動を行うことができた。

次年度への改善点

【目標設定】について

取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- A さらに成果を上げるために教職員間の意思統一をさらに深めていく必要がある。アセスの活用について、研修を通して知識を深め、見立てと支援を積極的に考える必要がある。
- B ジュニアリーダー活動は本校独自の取組として定着し、校区小学校や地域からの理解・協力もあり一定の成果を得ている。この取組をさらにより良くするためには、活動に参加した生徒の自主性や協調性、創造性を培い、育めるように改善していく必要がある。
- C 災害時に対応できるよう防災計画を高めるため実施時期や取り組み内容をさらに検討する。

取組内容②【施作2 道徳心・社会性の育成】

- A 次年度「道徳」を位置づけている月曜日の振替休日が多くなるため、年間35時間の授業時数を確保するため、年間カリキュラムにおいて曜日校時変更などの調整が必要である。
- B 今後も、進路保障に努めるためにも、キャリア教育の取り組み内容や、進路の手引きなど活用資料の精選をおこなう。
- C 次年度の「道徳の授業」完全実施をみすえ、人権学習との統廃合を進めてきたが、さらに項目内容22項目をすべて履修できるカリキュラムを求めていく。
- D アイマスク体験を視覚障がい体験に、変更し行った。理解度は「わかる」が90%を上回った。またそれに加え、聴覚理解授業を講師に依頼し、1年生と教職員を行った。来年度も実施を検討したい。

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- ・ 学習支援ボランティアのスタッフが足りていないことは、今後の課題となつた。また、ボランティア登録まではしていただけるものの、実働として定期的・継続的に支援ボランティアに参加していたける地域人材は十分確保できていない。次年度以降に、学校支援にあたっていただける人材探しが必要ある。

(様式例 2)

大阪市立東三国中学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】	
全市共通目標（小・中学校）	
<ul style="list-style-type: none">・中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。・全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題である握力、長座体前屈の平均値を昨年度より向上させる。	
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none">○授業力向上のための教員研修を積極的に実施するとともに、生徒の読書習慣および基礎学力向上に尽力し、平成 29 年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の平均正答率を昨年度より上げ全国平均に近づける。○ I C T 機器等を活用した授業を活性化させ、平成 30 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を昨年度より上げ全国平均に近づける。○平成 30 年度の校内アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して「している」と答える生徒の割合を平成 29 年度より増加させる。○平成 30 年度の校内アンケートにおける「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。○平成 30 年度の大都市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 40% 以上にする。○平成 30 年度における校内アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の 72% 以上にする。○平成 30 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成 28 年度より 2 ポイント向上させる。○平成 30 年度の校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について。「当てはまる」と答える生徒の割合を 65% 以上にする。○校内アンケートの「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない」と答えた生徒の割合を 9% 以下にする。○平成 30 年度の校内アンケートにおける「一日の睡眠時間」に対して、「8 時間以上」と答える生徒の割合を昨年度よりも向上させる。平成 31 年度の全国体力・運動習慣調査の質問項目「一日の睡眠時間」について「8 時間以上」と回答する	B

<p>生徒の割合を全国平均レベルにする。</p> <p>○第2学年において漢字検定受検にむけ取り組み、生徒の学習意欲向上と自信につなげ、基礎学力定着の一助とし、全国学力・学習状況調査における漢字正答率を増加させる。</p>	
---	--

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 <ul style="list-style-type: none"> A 習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実 各学年の教科学習において、習熟度別少人数授業など、個に応じたきめ細やかな指導を実施する。 B 理数教育の充実 自然との関わりを大切にした体験を重視した授業づくりや理科観察実験の充実を図る。 C 環境を守る意識の醸成 日ごろから公共物を大切にすることの育成を図り、美化委員の活動を通じて自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。 <hr/> 指標 <ul style="list-style-type: none"> A 校内アンケートで、「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を72%以上にする。 B 理科の「観察・実験」の実施回数を各学年10回以上にする。 C 美化委員会による清掃点検を年3回実施する。ゴミと砂を分別し、分別後のゴミ処理にも留意する。 	B
取組内容②【施策6 國際社会において生き抜く力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> A 英語教育の強化 小中連携を進め、「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の育成も含めた基礎基本の英語を大切にして取り組む。 B I C Tを活用した教育の推進 ICT機器を活用し、問題を解決できる生きる力の育成を図る。 <hr/> 指標 <ul style="list-style-type: none"> A 中学校卒業段階で、英検3級程度以上の英語力を有する生徒の割合を40%以上にする。 B 「学校における教育の情報化の実態などに関する調査」(文科省)において、教員の生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を65%以上にする。 	B
取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 <ul style="list-style-type: none"> A 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実 部活動の振興と充実に向けて、学校外から指導者を招聘するなど地域などの人材活用を進める。 B 食育の推進 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう食育を推進する。 	B

- C 睡眠習慣改善の取り組み
睡眠習慣の改善に向けた啓発活動を進める。

指標

- A 生徒アンケートで、「運動することが好き」と回答する割合を 70%以上にする。
B 教科等における食に関する指導の充実を進める。
C 全校集会や各種通信等で睡眠習慣の大切さを理解させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- A 学校アンケートの結果、「授業がわかりやすい」と回答した生徒は、1年生 78%、2年生 80%、3年生 75%になり、すべての学年において指標の 72%に達した。
B 理科の「実験・観察」を各学年とも 20 回以上行い、生徒が自然事象や科学に対する関心を持てるように取り組んだ。
C 美化委員を中心に地域の清掃活動にも積極的に取り組み、校内美化および東三国地域の美化にも進んで取り組めた。

取組内容②【施作 6 国際社会において生き抜く力の育成】

- A IBAにおいて 3 年生の 3 級以上の能力が 49%以上なので、目標値を達成した。
B 多数の教科で ICT 機器を活用した学習活動が進められた。また、各教室にプロジェクターが設置され、ICT 機器の活用がしやすくなった。

取組内容③【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- A 生徒アンケートにおいて、「運動することは好きだ」と回答した生徒は 66 %であり、70 %には達しなかったが、前年度より 5 %アップした。
B 家庭科や理科の授業の中で、食物と栄養に関する指導を行い、毎月、食育通信を発行することや、毎日の給食指導で、正しい食習慣の習得に努めた。また、1年生で、区役所から担当者が来校し、食育に関する授業を行った。
C 保健委員会が週 1 回の睡眠時間に関する生徒へのアンケートを行い、その結果をもとに文化発表会で、睡眠に関する劇をすることで、睡眠の大切さを理解を深めることに努めた。

次年度への改善点

【目標設定】について

取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- A 指標の数値をどの程度あげていくか緻密なシミュレーションが必要である。
B 来年度、実験観察の回数の目標をもう少し高めに設定し、さらに自然事象や科学に対する興味・関心を高めていく必要がある。
C 美化委員会による清掃点検を実施し、ごみ処理にも留意するようにした。しかしごみ箱にごみがたまっているところも見受けられるので、引き続き一人ひとりが責任を持って校内美化に努めていくように指導していく。

取組内容②【施作6 国際社会において生き抜く力の育成】

- A 2年生、1年生が卒業時までに3級程度の能力を有するように引き続き育成する。
小中連携の在り方、引き継ぎ方を検討する。
- B 新タブレットやソフトが更新され、活用できる学習内容が多くなり活用法を研究する必要がある。

取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- A 今後も、学校外から指導者を招聘するなど地域などの人材活用を進め、様々な視点から運動に対しての興味関心を深めたい。
- B 食育通信などをさらに有効に使っていく必要がある。
- C アンケートの結果、睡眠習慣が十分できていない生徒が見受けられるため、引き続き睡眠習慣の大切さを理解させる取り組みを進めていく必要がある。